序　文

日頃より京都医療センターの運営にご支援頂き感謝申し上げます。

さてこの度、２０１２年度の本センターの活動をまとめた平成２４年度アニュアルレポートが完成いたしましたのでご報告申し上げます。復活して２回目の年報になります。

２０１２年度は民主党の分裂により政権が混迷を深め、経済の再建や震災復興、財政再建など多くの課題を抱える中で、決められない政治がつづき、１２月１６日の選挙により民主党が大敗し、自民公明の連立政権が復活した年でした。さらに、竹島や尖閣列島の帰属の問題から韓国や中国との関係悪化による様々な課題が生まれ、北朝鮮の核の問題とともに東アジアの安定にとって大きな困難を生じています。

医療においては医師不足や地域や診療科での医師の偏在が依然として大きな問題とされ、医療費を含めた社会保障費の抑制と財政赤字の解消の課題解決がいわれてきました。財政赤字の中で医療費など社会保障費の自然増に対応して消費税の値上げが政治日程にあがってきた年でもありました。一方では京都大学の山中伸弥教授のノーベル賞受賞があり、日本のすべての人たちを歓喜させた年でもありました。

京都医療センターのこの一年をみると、平成２３年より始まった新病棟やNICUやGCUの運営も２４年度にも順調に成果をあげ、また、救急救命では「ことわらない医療」が実践されてきました。また、各診療科でも、診療内容が充実し患者数の増加と入院稼働率、診療点数の増加が得られています。これには、地域医療連携室の活動や事務職の方々の支えがあって実現してきたものと思います。２３年度は２月から３月にかけて、インフルエンザの院内での流行により病室の閉鎖や入院制限を経験しましたが、本年度は感染対策チームを中心に病院一丸となって早期よりきめ細かな対策を徹底することで、発生を最小限に押さえ、診療に影響することを防ぐことができました。これは、一昨年の経験を生かし、本院のすべての職種の職員がチーム医療を発展させた成果と考えています。そして、国立病院機構１４３病院の中で最も大きな収支の伸びにつながったものと思います。さらに、この成果は２５年度のPET-CTを備えた新外来棟の建設に向けて展望を開くものと思います。

しかし、今後を展望すると、間近では医療費の改定や京都の初期研修医枠の大幅な減少、さらに長期的には２０２５年度の医療介護機能再編など多くの課題が生まれてきています。そのためには、国立病院機構のもとでの本センターの使命を踏まえて、準備を怠らず、柔軟に対応して行くことが求められています。２０１２年度の成果を踏まえ更なる本センターの発展の為に、職員の努力はもとより、センターに関係する皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

院長　中　村　孝　志